

[翻訳]

## シェアードプリントプログラム

Rebecca Crist, Emily Stambaugh (訳) 村西 明日香

本稿は ARL (Association of Research Libraries ; 北米研究図書館協会) の報告書シリーズ "SPEC Kit" 第 345 号 "Shared Print Programs"<sup>訳注 1)</sup> の Executive Summary を翻訳したものである。この報告書は ARL 加盟館及びシェアードプリントプログラム管理者に対して実施した調査に基づくものであり、シェアードプリントプログラムの運営実態にとどまらず参加館の姿勢・将来展望なども明らかにされており、日本ではまだ事例のほとんどないシェアードプリントの実現に向け検討すべき事項を理解するための助けとなる。

### はじめに

このレポートは、シェアードプリントプログラム、分散している図書館ネットワークによる印刷資料保存の実態、プログラム参加のメリット、既存のコンソーシアムとシェアードプリントプログラム間の調整、印刷資料の長期的な利用予測などについて調査したものである。印刷資料保存に関する共同事業について、そのパートナーシップや事業に参加・継続する根拠を ARL (Association of Research Libraries ; 北米研究図書館協会) 加盟館<sup>訳注 2)</sup> が判断する際の性質を明らかにする。また、シェアードプリントプログラムへの出資についても明らかにし、その資金によってもたらされる印刷資料保存の進展を予測する。

本調査の目的の一つは、シェアードプリントプログラムにおいて保存場所となっている機関のタイプをよく把握することであった。プログラム内の他の参加館や他の ARL 加盟館といったピアグループと比較して、ARL 加盟館がシェアードプリント対象資料の所蔵機関としてどの程度機能しているかを理解しようと試みた。また、既存のコンソーシアムやリソースシェアリングのネットワークを超えて、シェアードプリ

ントのパートナーシップがどのように広がっているかも理解しようとした。これらの問いへの答えは、印刷資料の管理責任の基本的性質が変化したことを示唆し、現在そして将来におけるコレクションの共同管理を支えるために必要な組織、管理方式、インフラについての新たな問いを提起する可能性がある。

本調査の他の重要な目的は、印刷資料管理における ARL 加盟館の実際の役割・責任及び認識されている役割・責任、ARL 加盟館が関わっているシェアードプリント協定のパートナーのタイプ、印刷資料を保存しアクセスできるようにするためのより長期にわたる事例について、理解を深めることであった。これらすべての問いへの答えは、共同での印刷資料管理をどのくらいの期間継続し、また誰と協働するかについて示唆を与えてくれるかもしれない。ここで得られた知見を、これと同じテーマを研究している学界での他の研究成果や、印刷資料とデジタル資料の利用に関する文化人類学的な研究などと関連付けようとするなら、さらなる調査が必要となるだろう。

最終的に、本調査のもう一つの目的は、運用面から見たシェアードプリントプログラムの主要

な特徴と構造を理解することであった。シェアードプリントプログラム、ビジネスモデル、運用、サービスモデルなどの構造に関しては、続報で取り上げる。

## 調査と回答率

2014年5月に二つの調査を実施した。一つはARL加盟館に対して、もう一つはシェアードプリントプログラムの管理者・コーディネーターに対してである。ARL加盟館には、参加の有無、参加の狙いとメリット、参加する理由、提供されているサービスといった、すべてのシェアードプリントプログラムにとって基本的な質問を行った。こちらの調査では、単一・特定のシェアードプリントプログラムについて詳細に尋ねるのではなく、シェアードプリントに関する調整への参加について一般的に尋ねた。

シェアードプリントプログラムの管理者・コーディネーターには、特定のシェアードプリントプログラムについての質問を行った。36のプログラムの管理者に対して回答を依頼した。管理者には、特定のビジネス・運用モデル、戦略、目標、参加館、コレクション、保存の進行状況、アクセス、その他のサービスについて尋ねた。こちらの調査の目的は、ARL加盟館がシェアードプリント事業へどの程度参加しているかや、ARL加盟館が選んだシェアードプリント事業の種類と領域、異なるモデルが有する不安と長所を調査することであった。

この2つの調査には、印刷資料の長期的な保存についてARL加盟館が果たすべき役割・責任に関する考え方を尋ねる質問と、実際の保存割合や出資に関するデータを尋ねる質問の両方が含まれている。実際の出資額や認識されている価値などの情報によって、現在のプログラムや新興のプログラムの発展を思い描くことができる。

6月9日の期限までに、125のARL加盟館のうち62館（50%）が加盟館調査に、23プログラム（61%）が管理者・コーディネーター調査

に回答した。はるかに多くのプログラムが現在構想中であるため、計画中・稼働中いずれの段階にあるシェアードプリントプログラムであっても、データは収集した。23のシェアードプリントプログラムのうち10プログラムから実際の印刷資料保存統計と投資額が報告され、これは数年間稼働したプログラムの様子を表現するのに役立った。

## 用語の定義

本調査の目的に照らし、**シェアードプリントプログラム** (shared print program) とは、印刷資料を共同で収集または保存するとともに、それらにアクセスできるよう、図書館グループが協力することと定義する。

**シェアードプリントコーディネーター** (shared print coordinator) とは、公式な職務名称であるかどうかに関わらず、シェアードプリントプログラムを調整する者を指す。そのような個人は、複数機関による何らかの形の管理グループを組織したり、助言したり、支援したりするとともに、戦略的、政策的、分析的、機関横断的な管理支援を行うことが多い。

**アーカイブホルダー** (archive holder) とは、より広範なグループを代表して、印刷資料保存における長期的な責任を負う機関を指す。一般的には、印刷資料を保持し、その管理・保存のためのスタッフとスペースを継続的に拠出する場所と解釈される。アーカイブホルダーは資料を保存するだけの施設である場合もあれば、通常のサービスを行う図書館である場合もある。ここで「アーカイブ」という用語は厳密な意味では使用していないが、一般的に、意図を持って保存され共有されるコレクションとして、物理的にまたは事実上一緒にまとめられた資料を指す。

**提供図書館** (contributing library) とは、プログラムに対し資料を提供するが自らは保存しない機関であり、多くのプログラムで重要かつ不可欠な存在だが、これらの図書館はアーカイブホルダーとしては数えない。保存用コレクシ

ョンへ自館資料を提供するとともに、自館でもいくつかの資料を保存する図書館がある。それらの図書館は、資料を保存しているという理由で、アーカイブホルダーとして数える。

シェアードプリントプログラムはどれも異なっており、様々なステークホルダーや調整方法が存在する。各プログラムは特に、他の場所への資料の移動、共同体への一定レベルのコレクション管理責任の譲渡、所蔵している資料が少なくなったときの共同体に対する説明責任について異なる見解を持っている。様々な役割を表す共通の語彙はまだ存在しないが、問いに対する回答のいくつかで、ときどき言及されている。

アーカイブホルダーとして機能する機関の数に関する統計報告では、共有の保存施設またはシェアードコレクションをいくつかでも収容している保存施設を1と数え、その施設の管理者の実体に応じて ARL 加盟館／非加盟館を識別した。保存施設には複数の機関から盛んに資料が集まってくるので（例：CIC、CRL JSTOR、WRLC、UC Shared Print、WEST、Five College、MLAC、FLARE）、この数え方ではプログラムに所蔵資料を提供している機関の数を少なく見積もってしまうかもしれないと筆者らは認識しているが、そのようなコレクションを長期的に管理することにスタッフを従事させている機関の数はかなり正確にとらえている。非アーカイブホルダーとして報告されている機関は、非アーカイブホルダーであるとはっきり特定できる機関または、プログラムコーディネーターが非アーカイブホルダーであると認めた機関である。

### シェアードプリントコレクションの規模と範囲：アーカイビングのプロセス

シェアードプリントの協定は、保存する印刷資料の量と、責任の配分の点において、確かに大規模・広範囲なものになった。シェアードプリントプログラムは現在、高等教育機関の図書館界全体で見られる。この調査に回答したほとんどのシェアードプリントプログラムは、コレクシ

ョンを構築することではなく共同で管理することに重点を置いている。ほとんどは雑誌や単行書に焦点を当てているが、マイクロ資料のような他のフォーマットについても報告されている。

約 610 万冊の印刷資料<sup>1)</sup>が、何らかの形で明確に共同保存協定の対象となっている。対象となる印刷体雑誌は 27,180 誌（重複を含む）と推定され、数十万冊にも及ぶ。印刷体単行書の総数は見積もりが困難であるが、500 万から 800 万冊の間であろう<sup>2)</sup>。2014 年にラスベガスで開催された ALA（American Library Association；米国図書館協会）年次大会での OCLC Research の未刊の報告によると、保存義務があると OCLC 所蔵データ上に表示されている資料は、重複もあるだろうが 2 億 7,000 万件を超える。

シェアードプリントの及ぶ範囲は広がり、タイトルリストを作成するだけにとどまらなくなった。共同コレクションに含まれているものは何か参加館及び非参加館が理解できるよう、より深い目録作成、検索、リソースの共有、分析と統合が実際に必要となっている。シェアードプリント活動の機運は過去 3 年間に高まり、2012 年に 6 つの新しいシェアードプログラム協定が締結され、さらに計画段階のものも報告されている。

### 出資

このセクションの目的は、シェアードプリントプログラムへの出資に関する広い視野を提供することにある。資金調達モデルはかなり多様であり、一部のプログラムでは現物出資も大切なため、出資について十分説明することは難しいかもしれない。本調査には、特定できる範囲でプログラムに対する予算が報告されている。加えて、機関レベルでの出資実態を明らかにするため、各 ARL 加盟館の参加費平均（年額）を掲載している。これらプログラム単位・機関単位の数値は、シェアードプリントプログラム全体への出資を数値化する最初の試みかもしれない。そして、新しいプログラムが生まれる際や図書

館が新たにプログラムに参加することを考える際に、有用なベンチマークとなるかもしれない。印刷資料コレクション再編への出資についてより良く理解するためには、数年後にこれらの数値を再調査することも有用かもしれない。

将来的に共有される印刷資料の新規購入費用を支援する計画を持っているシェアードプリントプログラムは一つしかない、ということにも留意するとよいかもしれない。従って、このセクションで意味する「出資」とは、新たな資料の共同購入への出資ではなく、すでに所有しているコレクションを共同管理するための出資である。

14のシェアードプリントプログラムから報告された予算の中央値は年間 40 万ドルと少であった。これらのシェアードプリントプログラム管理者から報告された各プログラムの年間総予算は、0 から 100 万ドル以上という幅があった。参加機関の数、分析されているコレクションの規模、保存のために処理されるコレクションの規模、資料の所蔵場所、期待されるサービスのレベルなど、多くの要素によってプログラム予算は大きく変わる。また場合によっては、プログラムが既存のコンソーシアムの活動として統合されており、コンソーシアム予算全体からプログラムに関する経費を区別できないこともある（例：OhioLink、TRLN）。その他、プログラムの予算がまだ決定していないケースもあった。

機関の立場からの出資レベルをよりよく理解するため、ARL 加盟館に対してシェアードプリントプログラムの年会費を 3 年分報告し、3 年間の平均額を明らかにするよう求めた。回答館 32 館は過去 3 年にわたり、シェアードプリントプログラムへの直接会費として年間平均約 14,280 ドルを支払っていた。うち 21 館はシェアードプリントへの直接費用を支払っていないと回答した。1 つ以上のシェアードプリント活動に費用を支払っていると回答したのは 23 館であった。

この年間費用を、デジタル保存やその他の信頼できるサービスの費用と比較するとよい。

ARL 加盟館に対し、5 つのサービス（Portico、CLOCKSS、LOCKSS、HathiTrust、Digital Preservation Network）の年会費を報告し、各サービスへの 3 年間の平均支出額を明らかにすることも求めた。回答館 38 館は過去 3 年にわたり、サービスに参加するための直接会費として、1 サービスあたり平均 8,700 ドルから 53,980 ドルを支出していた。このようなサービスは互いに似ているわけではなく、多様な機能を提供するものであるが、どれも印刷資料の共同保存や印刷資料への将来的なアクセスに焦点を当てた共有サービスの一部であり、シェアードプリントプログラムと似たような印刷資料や似たような規模で実施されることが多い（例：雑誌のバックナンバー）。またシェアードプリントプログラムと同様に、既存の図書館コンソーシアムの上で、あるいはコンソーシアムを横断して管理されることが多い。

## アーカイブホルダーとしての責任と ARL 加盟館の実態

シェアードプリントプログラムに参加している ARL 加盟館はコミュニティ全体のことを考え、ほとんどがアーカイブ保持者としての役割を果たしている。回答があった 62 の ARL 加盟館のうちほとんどがアーカイブホルダーである。今後 5 年間には、ARL 加盟館によるシェアードプリントプログラムへのさらなる関与も期待できる。かなり多くの図書館（35/49、71%）が、今後さらに大きな役割を果たす予定であると回答、残り（17/49、35%）は同じ役割を引き続き果たしていく予定であると回答したためである。将来的に関与を減らす、やめることを予定している館はなかった。また、シェアードプリントプログラムに参加している図書館のうち約 15%が複数のプログラム（例：WEST と UC Shared Print、ASERL Scholars Trust と MedPrint など）に参加している。

現在シェアードプリントプログラムに参加している図書館のうちアーカイブホルダーとなっ

ていないのは7～9館のみである。回答によればこの理由は、プログラムがまだ初期計画段階（保存協定は計画されているがまだ策定されていない段階）であること、アーカイブホルダー指名の時点でそのプログラムに参加していなかったこと、グループ内やグループに対し保存や購入に関する協定を結ばないという決定があることなどが挙げられる。ほとんどが最初の二つの理由によるものである。

シェアードプリントプログラムにおいて保存される印刷資料の種類については、ARL加盟館は雑誌を選択する傾向にある。シェアードプリントプログラムの協定下において保存されている27,180誌のうち61%（16,570誌）はARL加盟館、39%（10,610誌）はARL非加盟館に所蔵されている。広域あるいは地域横断型のシェアードプリントプログラム（例：ASERL Scholars Trust、CIC、UC Shared Print、WEST）は、各々約200冊から30万冊の雑誌を保存する傾向にある。MedPrintは1,760誌（報告はされていないが推定約7万冊）を保存している。検討中であるHathiTrust会員間の印刷資料共有計画は、シェアードプリントコレクションの管理の現状を真に変革し、ARL加盟館の参加の深さや幅を広げることになるかもしれない。

シェアードプリントプログラムにおける責任を各機関に分散させる方法について、いくつか興味深いパターンが出現している。ARL非加盟館が長期にわたる保存において重要な図書館群として浮かびあがってくるのである。現行のシェアードプリントプログラムでは、ほとんどのアーカイブホルダーがARL非加盟館である。シェアードプリントプログラムには約251機関が参加しており、26%（65機関）がARL加盟館、74%（186機関）がARL非加盟館である。その全参加機関のうち164機関がアーカイブホルダーとなっており、その内訳は38%（62機関）がARL加盟館、62%（102機関）がARL非加盟館である。本調査ではARL非加盟館について調査していないため、ARL非加盟館という重要な

グループが印刷資料の保存責任を分散させることに高い意欲を持ち、コレクションの構築に長期にわたって責任を持つことを望んでいるのではないかと推測することしかできない。

加えて、冊子体は分散保存が望まれる傾向にあり、ARL非加盟館はARL加盟館に比べてかなり多くの冊数を保存することを任されている。シェアードプリント管理者による補足コメントにあるように、シェアードプリントプログラムにおいて610万冊が保存されており、その約80%（480万冊）をARL非加盟館が、20%（120万冊）をARL加盟館が所有している。これは多くの図書館にまたがるシェアードプリント協定の発生や需要の高まりとともに、長期保存に関与するARL非加盟館の意欲を反映している。

シェアードプリントへの参加は高等教育機関以外にも広がっており、プログラムには公共図書館や学位を付与しない機関の研究図書館も含まれ始めている。現在シェアードプリント協定に参加している機関の種類は2年制大学から学位付与機関まで、主には学術図書館である。注目すべきは、学位を付与しない機関の研究図書館やARL非加盟の公共図書館もシェアードプリントプログラムに参加していることである。公立機関と民間機関の両方が参加しており、その割合に大きな差異はない。これは支援制度の有無に関わらず、高等教育機関の多くの図書館がシェアードプリントプログラムに参加することに価値を見出していることを示唆しているかもしれない。

結論として、シェアードプリントプログラムへのARL加盟館の関与は将来的により多く、深くなることが予想される。印刷資料の保存先はARL加盟館・非加盟館いずれにもわたって分散され、ARL非加盟館は保存における重要な役割を果たすことになりそうである。そして印刷体単行書の分散保存により重点が置かれることが期待され、これはすでに変化しつつある図書館間の関係を変えることにつながるかもしれない。



## シェアードプリントプログラムの目標と利益

ARL加盟館やプログラムの管理者の考えるシェアードプリントプログラムの主な目標は、1) 学術資料の保存と提供、2) より効率的・効果的な印刷資料コレクションの管理、3) 重複についての情報をもとに図書館がコレクション管理の意思決定を行うための機会の創出である。最初の二つの目標は保存協定の調整によって進められてきた。

各図書館に対し、シェアードプリントプログラムへの参加の動機を質問した。ほとんどが、同じ地域の他館との協働のため、物理的なコレクションを維持する責任を共有するため、費用対効果が高い形で資料を保存するためといった動機であった。二番目に重要な要素としては、書架スペースを空けたり、他のARL加盟館と協働したりするということがあった。この協働とはARL加盟館との協働であり、その他の図書館（公共図書館や専門図書館など）との協働には高い価値が置かれていないことに注意が必要である。その他の回答からは、同じ地域であるということとはあまり重要ではなく、パートナーを決める際には別の要素が重要だということがわかる（後述）。

書架スペースを空けることは二番目に重要な動機であった。多くの図書館は書架スペースを他の用途のために空けることを望んでいた（32/50、64%）。その他、他の印刷資料のために書架スペースを空けることを望む館や（24/50、48%）、保存施設内の書架スペースを空けることを望む館もあった（21/50、42%）。

より多様なリソース（印刷資料あるいは電子媒体）を購入するため、重複購入を減らすため、印刷資料コレクションに対するさらなるサポートを得るため、他の様々な場所に保存されている印刷資料コレクションへのアクセスできるようにするためなどの目的でシェアードプリントプログラムに参加する図書館は、かなり少ない。これは、シェアードプリントプログラムはこれまでに収集してきたコレクションの共同管理を

行うことを望み、共同でのコレクションの新規構築はあまり重視しないという現在の傾向を反映しているのかもしれない。

ステークホルダーに対しシェアードプリントプログラムの価値をどのように明確に説明しているかをよりよく理解するため、ARL加盟館に対し、シェアードプリントプログラムへの参加について経営陣に説明する根拠について質問した。寄せられた回答は次の三つに分類される：1) 責任、保存、アクセスの共有、2) 効率のよいスペース。効率のよいという意味は、重複を減らす能力や、既存の収容能力を長持ちさせる能力、あるいは保管スペースに対する将来の需要を減らす能力を含んでいる、3) 根拠を示す必要がない。保存やアクセスに関する利益が唯一あるいは最も重要な利益であると強調している回答者がいることには注意すべきだが、一方で、短期的にも長期的にも重要なメリットとして、スペースの効率性を強調している回答者が多い。

「私たちは他機関とともにアーカイブビルダーとなっており、重要なコレクションへの長期的なアクセスを保証することができます。」

「シェアードプリントプログラムは我々が持っているコレクションよりも大規模な過去の印刷資料へのアクセスを広く保証し、自館コレクションのための書架スペースを開放します。」

「(私の) 主なメッセージは、シェアードプリントプログラムへの参加は印刷体の学術資料の保存を保証し、しかも保存の責任は多数の機関に分散されるというものです。新たな保存施設を建てることなく、私たちのスペースを別の用途に使うことができます。」

「私たちは、自館のスペースの制約を管理しながら、コレクションの深さや範囲を失わないようにしています。」

不思議なことに何人かの回答者は、シェアードプリントプログラムが十分に確立されており必要がないためとか、あるいはまだ計画段階にあるためといった理由で、シェアードプリントについて経営陣に話をしていないと回答した。

時間の経過とともに、シェアードプリントがもはや説明を必要としない図書館の理念の一部となる可能性はある。

しかし、注意に値することだが、述べられている利益と実態にはいくらか食い違いが出てきているかもしれない。多くの館がシェアードプリントプログラムに参加する主な動機としてスペースの不安や重複を減らしたいという目標を挙げているが、他の図書館で保存されているからという理由で自館の資料の除籍を始めたという報告は半数に満たなかった。実際、シェアードプリントプログラムに参加した結果として印刷資料を廃棄するということへの抵抗が生じているという回答が 7 あった。このような各館の懸念は、コレクション管理においてシェアードプリントプログラムが相対的に新しい概念であることや、次のような不安を反映しているのかもしれない：1) 他の場所に保存されている印刷資料へのアクセス、2) 所蔵情報の確認のレベル、3) 電子媒体へのアクセスの安定性や電子媒体の質に対する不安。

アクセスについては、保存されている資料の情報をプログラムは様々な方法で図書館員に知らせているにも関わらず、他館で保存されているタイトルの情報を自館の目録上で提供しているのは回答館の約 20%のみであった。ネットワーク内外の保存協定がより見えやすくなれば、図書館員や利用者は除籍を受け入れやすくなると考えられる。いつかは、経営陣や利用者に説明しているシェアードプリントプログラム参加のメリット、特にスペースの再生やアクセスに関するメリットについて、それを実際の行動と一致させる必要があるかもしれない。共有しているリソースを発見しやすくし、より統合していくことは、この今後も続くであろう経営陣や利用者との対話において図書館員を後押しするかもしれない。Maine Shared Collection Strategy などいくつかのプログラムは、アクセスをより増やすための一つの方法として、プリントオンデマンドや電子ブックのオンデマンドサービス

を検討している。

### 管理責任：ARL 加盟館の考え方

印刷資料の保存、印刷資料への長期的なニーズ、協働するパートナーの種類に関する長期的な見通しをよりよく理解するため、各館に対しいくつかの質問を行った。彼らは一般的に、印刷資料の保存は重要であり、ARL 加盟館はその役割を果たすべきだが、他の図書館も巻き込む必要があると考えている。

回答館の中には、電子媒体の利用可否や電子媒体の保存状態に関わらず印刷資料を保持することが一部の図書館にとって重要だという意見が強くある (47/50 が強く同意) が、包括的に印刷資料を保存し管理するのは各 ARL 加盟館の責任だとの意見は、かなりの数はあるものの、それよりは少ない (40/50)。

同じ質問を現在シェアードプリントプログラムに参加していない ARL 加盟館に行ったところ、6/8 館が一部の図書館が印刷資料を保存すべきであるということに賛同し、うち半数 (3/6) の館が ARL 加盟館に重要な管理責任があると感じていると回答した。

「必ずしも ARL 加盟館自身が包括的に印刷資料コレクションを保存しておく必要はない。…ARL加盟館はあらゆる規模の図書館間における全国的な協働を推し進めるための、強いリーダーシップの役割を發揮すべきである。…」という重要なコメントがある。また、ARL 非加盟の専門図書館、国立図書館、CRL (Center for Research Libraries ; 研究図書館センター) との協働の必要性も強調している。要するに、「ARL 加盟館は主導権を握る立場としては最も適している」が、その他多くの図書館をも巻き込む必要があるということである。回答館は、責任が分散することに本質的な価値および期待があると強調しているが、ARL 加盟館が重要または中心的な役割を果たす一方、国内機関や学術機関に限らないネットワークに頼ったり、より幅広いネットワークに焦点を当てたりする必要があると

述べていることにも注目すべきである。

事実、印刷資料コレクションの将来展望についての質問では、ほとんどの回答館は「今後 20 年のうちに利用者は、ARL 加盟館・非加盟館のネットワーク内で、あるいは ARL 加盟館・非加盟館・大規模公共図書館のネットワーク内で、印刷資料は意図的に分散して保存され、結果として各館が持つ資料の数は少なくなっていることを理解するだろう」と回答した。印刷資料の保存と管理の責任は将来的に分散することが想定されているというこの結論は、本調査の他の部分の結論とも一致している。

### 望ましいパートナー

シェアードプリント協定において求められるパートナーの種類について、ARL 加盟館に対し追加の質問を行っており、この質問は計画の立案の際に有用かもしれない。回答館はいくつかの共通の項目を重視していた。一般的に、1) 大規模公共図書館ではなく学術図書館が参加している、2) 共有され、保存されているコレクションへのアクセスを向上させるために努力を行っている、3) 利用者（特にコレクションを破損させたり紛失させたりした利用者）の「管理」を行っているようなプログラムやパートナーが好まれる。印刷資料コレクションについて協働するパートナーを選ぶ場合、回答館は同じリソースシェアリングコンソーシアムに属しているパートナーを最も評価するが、必ずしも同じ州や地域である必要はない。これらはパートナーを選択する際の主要な基準として浮上した。二次的な基準としては、その館の管理者との親しさや、貸し借りについて同等であるかといったことが含まれていた。

地理的な近さ、コレクションの類似性・非類似性、貸し借りのパターンの大きな格差は、パートナーを選択する際の重要な基準ではない。同じ州や地域内のパートナーシップに特に関心があるという回答はないが、既存の地域のネットワーク内で進化しているものもある。実際多くの

シェアードプリントプログラムが、同じ地域のパートナーあるいは隣接しない地域のパートナー（22 のプログラム中 12、COPPUL SPAN、MedPrint など）を含んで形成されており、従来の信頼できるネットワーク（あるいは少なくとも契約やリソースシェアリングの協定をすでに結んでいるネットワーク）を超えた印刷資料コレクション管理が段階的に進んでいることを示唆している。

集約されたシェアードプリントコレクションを包括的なものとするには（もしそれを目指すのであれば）学術図書館と公共図書館のコレクションを組み合わせることが求められるといいくつかの OCLC レポートが示しているにも関わらず<sup>3)</sup>、回答館は大規模公共図書館を巻き込むことにあまり積極的でない。少なくともひとつのシェアードプリントプログラムに公共図書館が含まれているだけである（Maine Shared Collections Strategy）。今後も新しいシェアードプリントプログラムが実行に移され、保存しているコレクションも進化するため、この回答は数年後に再検討する価値があるかもしれない。

また回答館は、協定が確立されていること（コレクション管理のやり方を規定する一般協定や、期待されるコレクション管理のやり方を成文化するための法的な協定）を強く望むわけではないが、何らかの協定は重要であると考えている。ある回答館は「保存資料への利用者のアクセスに関するガイドラインが明確になり、保存を続ける期間も明確になるような覚書をパートナーと交わすことは我々にとって重要である。」と述べている。

### コンソーシアムと、協働の意味合いの変化

シェアードプリント協定が既存のコンソーシアムの構造を超えた意思決定を行いうるかにについて理解するため、いくつかの質問を行った。印刷資料コレクションの管理に関する意思決定について、自館内あるいは従来の契約やリソースシェアリングを中心としたコンソーシアムから、



それと異なる構成のより大きなグループ内へと移行することは、これまで以上に大きな集団によるコレクション管理手法が現れつつある（あるいはその必要がある）ということを示しているのかもしれない。

多くのシェアードプリント協定では共同所有権については明言されていないが、保存しているコレクションに関する意思決定を共有することについては重要な条項が含まれている。アーカイブホルダーが個々の図書館レベルで負っていたコレクション管理の責任は、参加館で構成されるグループにある程度譲渡される。特にタイトルの除籍や保存役割の終了に関する決定は、グループ全体で管理される。このように印刷資料コレクション管理の意思決定をより広いグループ（従来のコンソーシアムの構造に限定されていないことが多い）に移行することや、共同コレクションの全体的な範囲（そしてそれは変化を促す可能性がある）は、ある程度広い範囲で調整を行う段階に入っている。

シェアードプリントプログラムが成熟し、図書館が重複を減らし始めるにつれて、そのプログラムによって保存されている資料へのアクセス、検索、配送に関して協調することはより重要になるかもしれない。資料にアクセスできなくなることは起こり始めている。2008年から2012年の間、ほとんどのプログラムは保存協定を策定することに焦点を当てていたが、最近（2012年以降）の焦点は保存協定に基づく除籍であるとプログラム管理者は報告している。19館（38%）が他のARL加盟館・非加盟館による保存協定に基づき、除籍の決定を行っていると報告している。

リソースシェアリングの観点では、回答館の大半（40/49、82%）が複数の貸出ネットワークに参加しており、一部は6以上ものネットワークに参加している。また回答館の78%（38/49）が既存の協定の中で、シェアードプリント対象資料へのアクセスというメリットを他の貸出ネットワークにも拡大している。ほぼすべてのシ

ェアードプリントプログラム参加館（44/49、90%）が、1つ以上のグループやコンソーシアムによる電子リソースのライセンスプログラムに参加している。

こうしたネットワークの重複は、シェアードプリント協定が既存のネットワーク上で相互に運用可能であり、それらに参加することを何ら制限しないことを示している。さらに、シェアードプリント対象資料であることを明らかにするためのOCLCメタデータガイドラインは、広範なリソースシェアリングネットワークにおいて保存対象とされている資料を再統合する可能性をもたらす。このガイドラインの採用は徐々に行われてきており、さらに発展する可能性がある。シェアードプリントプログラムの47%（9/19）が、参加館によって保存されている資料は自館の所蔵レコード内で識別され、保存協定のために割り当てられた個別のOCLCシンボルとMARC583フィールドを使用していると報告している。管理者は、雑誌のバックナンバーに焦点を当てたユニオンカタログにおいてもプログラムの所蔵情報を明らかにしている（例：PAPR、DocLine、JRNL）。現在、特定のパートナーシップあるいは複数のパートナーシップにまたがるシステムや、利用者に対し保存状態や配置場所を示す方法に課題を抱える既存のリソースシェアリングネットワークでは、そのリソースが一貫した形や一様な形で明らかになっているわけではない。ARL加盟館が望む共同コレクションへのより良いアクセス・より多いアクセスを実現するには、この領域においてさらに多くの作業が必要である。

## シェアードプリントにおける単行書と将来のサービス

雑誌保存協定に関しては非常に重要な進歩があったが、単行書は今後検討される領域と思われる。図書館は保存スペースの慢性的な不足やコレクションの一部の領域で重複が多いことに直面し、将来のためにどのくらいの多様な資料

を保存できるかについて、また一部の資料を廃棄しつつ保存を確実にするための協働の方法について検討を試みている。Maine Shared Collections Strategy と PALNI/ALI プログラムは、とても有益な専門知識を与えてくれる先駆的なプログラムである。

単行書に関する協働にはこの他にも、いくつかの重大な課題がある。将来の方向性をよりよく理解するため、ARL加盟館に対し、将来の意思決定に影響を与えうる出版や利用の側面をどのように考えているか質問した。さらに、複本が少ない単行書の共有コレクションを支えるため、今後図書館のどの部署で調査や実験を行うことを検討しているか質問した。

回答館は、今後の動向を判断するために最も重要と考えている活動として次のようなものを挙げた：1) 電子書籍の図書館間の貸出機能、2) 研究ライフサイクル全体における印刷体単行書と電子版単行書の使用、3) 共有されている印刷体単行書の検索や、配送機能が強化されることによる利用の変化、4) 印刷体単行書の除籍率。興味深いことに、これらの大部分が図書館管理におけるコレクション管理の領域に関わることである。

数は多くないが回答者が指摘したその他の重要な領域としては、電子版が利用可能になったときの印刷体単行書の利用のモニタリング、異なる利用者集団による印刷体単行書の利用の比較、文章を長く連ねる形式からよりダイナミックな形式への出版形態の移行、図書でない出版物による成果発表、印刷体単行書に関する満たされない需要の追跡などがある。これらの事項は多少図書館のコントロールを超えるものであることに注目しておきたい。

単行書の共有のために必要なインフラは何かを知るために、試してみるべき図書館サービスを質問したところ、主な回答は次の通りであった：1) 共有印刷体単行書コレクションの調整されたデジタル化、2) オンデマンドでのスキャンサービス、3) 共有印刷体単行書とその電子版の

メタデータを統合して表示すること、4) 図書館やリポジトリで保存を行いつつ追加的なアクセスサービスを開発することにインセンティブを与えるビジネスモデル（場合によっては「無料」「有料」のオプションを含む）。さらに、中程度の関心が見られたが検討に時間がかかり対応がより困難なサービスとして、次のようなものが挙げられた：1) 相互貸出のネットワークの拡大、2) オンデマンド印刷、3) 図書館やリポジトリのネットワーク全体へ資料の受取場所を広げること、4) 保存館やリポジトリのネットワーク内の認証ユーザーに対して郵送で直接配送すること。貸出期間や貸出規則の統一についてはあまり関心が高くなかった。

### 印刷資料の利用に関する将来予測

印刷資料の管理を続ける理由についてよく理解するため、ARL加盟館に対し、可能性のある印刷資料の利用法や、その利用法が重要であるのは将来何年ほどかについて質問した。これらの質問は、なぜ「印刷資料を保存するのか」という質問から始めた。また、電子媒体が利用可能で、保存が行われている印刷体の雑誌についてのみ尋ねた。印刷体のみが利用可能な雑誌や印刷体の単行書（ARL加盟館の蔵書のうちの大半）については質問を行わなかった。保存に対する論理的根拠は異なる可能性があるが、これらの回答は対応や戦略を策定するのに役立つかもしれない。設問は Ithaka S+R による非公開の調査において使用されたものの修正版であり、許可を得て利用した。特に単行書のシェアードプリントコレクション管理について将来的なフレームワークの策定を始めるため、本研究の回答（ARL加盟館の見通し）と、ARL・MLA (Modern Language Association ; 米国現代言語協会) ・ALCA ( American Council of Learned Societies ; 米国学術団体評議会) で現在進行中の印刷体コレクション管理の業務、研究者の見通しを対照することは有用であるかもしれない。雑誌のデジタル化や保存が十分行われている

場合には、印刷資料を保存することの根拠は次のように分けられる：1) デジタル化・再デジタル化に関する技術的なケース（スキャンのエラー、スキャニング基準の変更）、2) 印刷形態の調査が求められる研究上のケース、3) 図書館としての責任あるいはコレクション管理上の責任（オンライン資源の致命的な損失、コミュニティがその資料を重要と考えていること、機関の名声のため、除籍作業を避けるため）。

回答によれば、デジタル化や電子的な保存が十分行われている印刷体雑誌について最も考えられる将来の利用方法は、芸術品としての特性に関する調査、版の証明、挿絵や付属資料へのアクセス、デジタル版へアクセスできない利用者の利用など、印刷資料そのものが必要な場合である。

回答館は、その資料の版を特定するための利用、芸術品としての価値、挿絵へのアクセスのための利用などは、今後 20 年間、場合によっては 20 年以上先でも重要であると考えている。図書館の責任、図書館コレクションの管理の問題、コミュニティの方針に関わる利用は今後 5～10 年間は重要かもしれないが、これに関連する利用で唯一永続的なケースとしては、オンラインリソースに致命的な損失があった場合にでもアクセスを提供することである。デジタル化に関連する技術的な問題は、今後 10 年間で解決されるであろうと回答館は考えている。

要約すると、ARL 加盟館は特定の問題、特にコレクション管理とデジタル化に関連する問題は今後 10 年間で解決されると予想しており、これらは印刷資料を保存する根拠とはなっていない。しかし、資料の芸術性や真正性、挿絵や付属資料へのアクセスといった研究上の目的や、デジタル資料にアクセスできない利用者をサポートするため、印刷資料にアクセスすることには長期的な必要性があると考えている。

### シェアードプリント管理の枠組みと特性

シェアードプリントプログラムには、ARL 加

盟・非加盟の学術図書館だけでなく、公共図書館、学校図書館、専門図書館、コミュニティカレッジ、非学位付与機関など、多くの種類の図書館が含まれる。また既存プログラムの規模も大きく異なり、3 館による保存協定から 204 館による保存協定まで様々である。ほとんどのプログラムは特定の（かなり広いものもあるが）地理的な地域を中心に行っているが、国家、州、地域の境界を越えるものもある。州立機関と民間機関はほぼ同程度である（州が 121、民間が 110）。一部のプログラムは特定の分野に焦点を当てており、法律資料を収集するための PALMPrint や医療関係資料の MedPrint Medical Serials Preservation Program などがある。調査結果によれば、印刷資料共同コレクションは、機関の種類やコレクション形成の理念よりも、図書館コレクション管理の実務に対して暗黙の利益をもたらすものと認識されている。

### 管理、運営、覚書

ほとんどのシェアードプリント協定は正式な協定によって定められており、ほとんどの場合は覚書が交わされる。（いくつかのサンプルを本レポートの「representative documents」のセクションで紹介している<sup>訳注 3)</sup>）これらの協定は様々だが、一般的にはプロジェクトの管理と意思決定の方法を記し、期待されるサービス要件を示し、契約の期間を指定する。多くのプログラムは複数の覚書を持ち、保存館としての役割を果たす機関の協定と、他館で所蔵されている本を利用する機関やプログラムの中でも役割が軽い機関の協定は異なる。

参加や資金に関する協定は短～中期の期間に設定される傾向があり、15 件中 8 件（53%）が有効期間を 10 年以内としている。保存に関する協定は一般的にこれらの協定より長く継続するものが求められる。10 年以上保存することを定めた協定が 17 件中 13 件（76%）であり、最も長いのは 25 年である。

資料が元の図書館で保存されているか別の場

所に移動されているかに関わらず、共有資料を拠出する図書館がその資料の所有権を持つという協定は、締結された協定のうち半分を超える。所有権を保存図書館やシェアードプリントプログラム自体に移管するものはあまり多くない。

コンソーシアムであろうと個々の図書館であろうと、シェアードプリント協定を支持している組織はプログラムの運用を積極的に支援する傾向にある。最も一般的なのは、プロジェクトの調整、財政管理、コミュニケーションや運営上のタスク、方針の策定、およびコレクション分析について、会員や参加館を代表したり協力したりする調整機関を任される。

### ビジネスモデルの要素

実際の金額は年ごとに決まるとの回答もあったが、会費や事業構造は一般的に覚書で明示されている。シェアードプリントプログラムの資金の出どころは多い。いくつかのプログラムには州や財団からの資金が与えられるが、ほとんどのプログラムの資金は会費や現物支給（労働、物資、インフラ）で賄われる。資金源について報告した 17 のシェアードプリントプログラムのうち、9 プログラムは会費に頼り、4 プログラムは正式な資金調達をしていないか、参加図書館の自主的な取り組みに頼っている。助成金を受け取る（3 プログラム）、州から資金を受け取る（3 プログラム）、既存のコンソーシアムが全額または一部を拠出する（4 プログラム）ところもある。

各プログラムは異なる会費体系を取っている。会費が発生する場合、その料金は何らかの形の費用分担公式に基づいて設定されることがある。一部のプログラムは、労働やスペースなどのサービスを提供する会員に対し割引を行っている。従来型の共同保存書庫の協定<sup>訳注 4)</sup>では書庫の使用レベルが考慮されることがある。

シェアードプリントプログラムには一般的に、複数の機関によるサービスを支援するための協同投資が含まれている。通常その投資によって、

プログラム管理、コレクション分析、システムのインフラが支えられる。資料に関する作業（配送、整理、保護）や目録（情報開示）の費用は参加館によって賄われることが多い。保存施設への保管、照合サービス、欠号補充などに要する費用の扱いはプログラムによって異なり、共同負担される場合と各館が負担する場合がある。

シェアードプリントプログラムの多く（13/21、62%）には、事業のために少なくとも労働時間の一部を費やす専門スタッフがいる。そのうち半数には 1 名以上の専任の正規スタッフがいる。一方、プログラムの 38%には特定のスタッフがおらず、その代わりに労働、物資、プロジェクト管理などの多くを参加館に頼っていることは注目に値する。

コレクション分析については、回答館はシェアードプリントプログラムまたはプログラムコーディネーターによって提供された情報をもとに、保存する資料を選択する傾向にある。コレクション分析のために外部ツールやサービスを使用したと報告したシェアードプリントプログラムのうち半数は、Sustainable Collection Services（6/16、38%）と OCLC Collection Assessment（4/16、25%）の二つを使用していた。自館で意思決定を支援するインフラを開発したのは半数であった。複数機関のコレクション分析は通常、何を保存するかについてのグループとしての意思決定を手助けするために行われる。

コレクション分析は印刷資料共同管理において重要な仕事である。多くの回答館はコレクション分析を、難しく労力と時間を要するプロセスとして挙げており、必然的に、シェアードプリントプログラムの大半はコレクション分析のためのサービスやツールについて第三者ベンダーに依存している。これらのサービスまたはツールを使用して除籍を決定したと回答したのは 4 館のみであった。シェアードプリントプログラムに参加することによって個々の機関での重複排除や除籍が促進される可能性は実際にはある



が、シェアードプリントプログラム自体は除籍にはあまり関与していないようである。21 のプログラムのうち 2 つは除籍の目的のために第三者サービスを手配または契約している。各館の除籍の方針や州・その他の法律上の方針もまた、グループにおける除籍の決定に影響を与えている可能性がある。

回答した ARL 加盟館の 32% (16/50) が、昨年シェアードプリントに人材を提供した。これらの図書館はシェアードプリントコレクション管理にスタッフの時間を割り当てるにあたって、ポジティブな面とネガティブな面の両面を理解している。14 館はスタッフの時間や作業負荷を懸念事項として挙げたが、参加するメリットとして協働、ネットワーク、人材育成の機会を挙げた館もほぼ同数あった。ある館は「私たちは印刷資料以外のリソース、特に人的リソースを、目録・メタデータの作成や選書などの領域で共有することについて議論するきっかけとして、シェアードプリントコレクションを使用した」と述べ、一方別の館は「スタッフの時間を用いてシェアードプリントの責務を果たさなければならぬため、このプロジェクトによって他のコレクション管理業務に遅れが生じた」と述べている。自館のコレクションの分析に関しては、ARL 加盟館の 9 館がレコード管理の難しさと、異なる図書館システムの統合の難しさを重要な課題と述べている。11 館 (22%) は除籍の補助ツールを使用し、9 館 (18%) は第三者の除籍サービスを使用している。

### 分散か統合か

保存プログラムに資料を提供する前に、いくつかの重要な決定が必要となる。一つは資料を、ネットワーク内に分散している図書館の特定の場所で資料を保存するか、ネットワーク内で移動させて保存やセキュリティを強化するか、中央のリポジトリに統合するかということである。どのモデルでも優れたプログラムが構築されている。

シェアードプリント資料がその目的だけに使

われる施設に収容されることはほとんどない。多くのプログラムは、既存の図書館や保存施設内の使用可能なスペースを使用することによって、効率を最大化し、コストを最小限に抑えている。利用可能なスペースが館によって異なるため、保存環境の質・条件や資料の検証方法は協定で指定されている場合とされていない場合がある。ほとんどの協定では、提供館、借用館、保存館に関して、サービスレベルを含む参加条件が規定されている。特に提供館に求められるものは通常限られており、主としてレコード管理に重点が置かれている。全体を代表してコンテンツを保存する図書館にはより多くのものが期待されており、これらの保有館には、アクセスやメンテナンスに関連する活動、OCLC の更新やその他の情報発信によって所蔵情報を知らせる活動などが課されることが多い。

20 のシェアードプリントプログラムのうち 13 プログラム (65%) が資料は元の所有館で保存されていると回答し、そのうちの 4 プログラムは特別に指定された場所に再配置する可能性がある」と述べている。12 プログラム (60%) は複数機関の保存施設として機能する施設に資料を再配置したと回答した。保存することに同意した図書館に資料を送ったと回答したプログラムもあった。いくつかのプログラムは、元の所有館と統合された保存施設の両方を含むハイブリッドモデルであると回答した。これらは確かにプログラムによる決定だが、利用可能なスペース、スタッフ、およびこれらの資料を整理する時間に基づいて、プログラム内での保存場所を図書館が判断した可能性がある。報告されたプログラムの半数 (9/21, 43%) は、新規参加館へ責任を拡大したり、単行本などの新たな資料種を導入したりする予定があると回答している。

回答館 49 館のうち 14 館 (29%) が複数の機関から資料を積極的に受け取りそれらを統合していると回答し、28 館 (57%) が他の場所で保存されているコレクションの欠号を埋めるために資料を提供していると回答した。9 館だけが



資料を保管する場所になっていないと回答しており、このうち 4 館は同じ共同保存施設プログラムに参加している。

しかし、アーカイブホルダーの役割を特定するために使用したデータや文書の出どころは二つある。アーカイブホルダーとしての ARL 加盟館自らの報告と、ホルダーとして機能する機関のシェアードプリントコーディネーターの報告である。ARL 加盟館 49 館の回答館のうち 41 館が、自館がアーカイブホルダーとして機能していると回答したが、場所や数に関する統計情報を提供するシェアードプリントコーディネーターがアーカイブホルダーとして認識している ARL 加盟館はそれより少なかった。シェアードプリントプログラムに新しく参加した図書館がコーディネーターの回答数に含まなかった場合や、シェアードプリントプログラムの文書や統計で正式に規定されているものとは異なる役割を図書館が認識している場合があると考えられる。理由が何であれ、ARL 加盟館とシェアードプリントプログラム管理者が、参加形態について違った報告をしているのは興味深い。

### 共同事業

コレクションが物理的に統合されているかどうかに関わらず、コレクション管理に関する一定の業務は一般的に、参加機関全体で共通化されるか、共同コレクションのためにシェアードプリントプログラム自身によって行われる。前述したコレクション分析以外の共同コレクション管理活動としては、検証、情報開示、検索、アクセスサービスなどがあり、場合によってはシェアードプリントコレクションに関するプリントオンデマンド、電子ブックオンデマンド、電子化のような電子アクセスサービスがある。

ほとんどのプログラム（15/21、71%）では、資料を統合する前に、少なくとも一部の資料について巻レベルでの検証を行う。また 10 プログラム（48%）は、すべての資料を巻レベルで検証する。さらに少数（4/21）のプログラムはすべての資料を号レベルで検証する。すべての資料

についてページレベルの検証を行うプログラムはない（しかし少なくとも 2 つのプログラムでは、このような詳細な検証を一部の資料について実施している）。シェアードプリント資料であることを示す固有の OCLC 記号を追加する作業やユニオンカタログで所蔵を公開する作業は広く行われているわけではないが（38%が一部あるいはすべての資料について行っている）、資料を統合する前に所蔵レコードを修正することは一般的に期待されている。一部のプログラムでは、検証業務とその基準について正式に定めている。

ほとんどのプログラムは、共同購入や、広範で体系的な印刷資料のデジタル化を、シェアードプリントプログラムの範疇として含める計画はしていないが、より包括的なプログラムの構築を検討しているところもある。特に **Maine Shared Collection Strategy** は、アクセスを支援するためのプリントオンデマンドサービスや電子ブックオンデマンドサービスについて調査を始めているし、自分自身でそのようなデジタル化を行わない図書館は **HathiTrust** と協力してデジタル化を確実にするといった計画を検討している。

### 保存される資料

現在のところ、共同保存のために集められる資料の主な形態は雑誌であり、21 のシェアードプリントプログラムのうち 16（76%）が収集していて、関連する索引や付録もときには対象としている（7 プログラム、33%）。しかし単行書コレクションがあまりないというわけではなく、48%（10/21 プログラム）が現在単行書を保存しており、単行書へ移行する意図を示しているプログラムもある。その他に収集される資料としては、政府文書、地図、大型資料などがある。8 プログラム（40%）は印刷形態でない資料（マイクロ資料、視聴覚資料、コンピュータファイル、地図、写真、スライド、芸術品など）も保存するとしている。

これらのプログラムの多くは機関間での重複

を減らすことを明確に意図している。驚くことではないが、ほとんどのアーカイブは 1 冊 (14/18, 78%) あるいは 2 冊 (3/18, 17%) を保存するとしている。質問では雑誌と単行書を区別しなかったのだが、さらに調査すれば、それぞれの方針の違いが明らかになるかもしれない。シェアードプリントプログラムは、確率は低いものの資料を失う可能性はあると考えており、回答したプログラムの半分以下 (9/19, 47%) が破損や紛失に対処するための方針を持っていた。

シェアードプリントコレクションの規模は幅広く、保存タイトル数が 60 タイトルのものから 140 万タイトル (単行書及び雑誌) のものまである。参加館の数、所蔵している資料の種類、個々の図書館のコレクションの規模、所蔵の重複といった多様性が、プログラムで保存されるタイトル数に影響する場合がある。回答したほぼすべてのプログラム (20/21) が今後数年間で印刷資料の保存数をできる限りで増やす予定にしている。さらに、9 プログラム (43%) は共同での印刷資料受入に投資する計画を示したが、これらのプランの多くはまだ初期段階である。

### アクセスと検索

シェアードプリント管理者の回答では、保存している資料にまったくアクセスできないような「ダークアーカイブ」として運営されているところはなかった。ほとんどのプログラムは会員や非会員に対し、貴重書を除く資料を利用可能としているが、多くはデジタル版の代替物を通してアクセスしてもらうことが望ましいとしている。雑誌は一般的に、図書館内での使用に限定される。多くのプログラムは州やその他の既存の貸出ネットワークの制約を受けており、保存されているコンテンツへのアクセスは標準的な ILL プロセスに従うところが多い。

しかし協定によってアクセスが広く保証されている一方、保存されている資料を検索可能にすることは、個々の参加館の判断や能力に任せられているようである。参加館は MARC の所蔵レコード (13/20, 65%) や、プロジェクト管理

上配布されるリスト (11/20, 55%)、統合図書館システム (ILS) (4/20, 20%) などによって保存タイトルを知る。さらに OCLC Firstsearch や WorldCat、PAPR、JRNLI、DOCLINE などのメタレジストリを使用して、参加館や広域の図書館コミュニティに対し保存義務を表示する。シェアードプリントプログラムは、保存されているコレクションを図書館利用者に対して見えるようにすることについて、あまり関心がない。

ほとんどのプログラム (14/20, 70%) は、グループを代表する一機関が保存している資料をその機関の OPAC に表示させると回答した。保存施設に保存している資料について、その施設を管理する機関の OPAC に表示させると回答したプログラムは、半数よりやや少ない (8/20, 40%)。シェアードプリントプログラムの他の参加機関から提供された資料を表示させているところはさらに少ない。州全体の図書館ネットワークのような独立機関によって構成されるシェアードプリントプログラムは標準化された図書館システムを共有している可能性が高く、したがって所蔵を各機関から見えるようにするのは容易であるのかもしれない。ユニオンカタログや各機関のシステムが統一されていない場合、所蔵情報を共有するのは難しいかもしれない。

### 謝辞

本稿の翻訳にあたっては、ARL の Publications Program Officer である Lee Anne George 氏及び原文の著者である Rebecca Crist 氏、Emily Stambaugh 氏に許諾をいただきました。心より感謝申し上げます。

## 【参考・引用文献】

- 1) この数は過少報告あるいは過少評価されている可能性が非常に高い。シェアードプリントプログラムには、タイトル数、冊数、またはその両方、つまり合理的に収集されるものすべてについて報告するよう求めた。タイトル数のみの報告の場合、単行書のタイトル数は冊子体の数と一致する（1タイトル＝1冊）が、雑誌の各タイトルについてその冊数を見積もり、集約する試みは行われていないため、所蔵数は過少見積もりとなっている可能性が高い。この数値には、計画中または預入を計画しているシェアードプリントプログラムのものは含まれていない。
- 2) 3つのシェアードプリントプログラムがこのデータを報告した。いくつかの注目すべき単行書のプログラムからは報告されなかった。Maine Shared Collections Strategy と Connect NY は220万冊超、PALNI/ALI は500万冊超の印刷体単行書が保存協定に含まれていると報告している。
- 3) Lavoie, Brian, Constance Malpas, and J.D. Shipengrover. “Academic institutions are the custodians of the majority of systemwide print book inventory”. Print Management at “Mega-scale”: A Regional Perspective on Print Book Collections in North America. OCLC Research, 2012, p. 26-28.  
<http://www.oclc.org/research/publications/library/2012/2012-05.pdf>

訳注 1) Crist, Rebecca; Stambaugh, Emily. SPEC Kit 345 Shared Print Programs. Association of Research Libraries, 2014.  
<http://publications.arl.org/Shared-Print-Programs-SPEC-Kit-345/>, (accessed 2018-02-28).

訳注 2) ARL に加盟するには次のような条件がある。

「ARL 会員は、共通の研究使命・目標・関心・ニーズを有する研究機関に限られ、加入するには理事会の推薦を受け、会員による承認を受けなければならない。候補機関は、設定された基準を満たすことが必要とされる。」（高木和子. “4.4 ARL（研究図書館協会）”. 米国の図書館事情 2007－2006 年度 国立国会図書館調査研究報告書（図書館研究シリーズ No.40）. 国立国会図書館. 日本図書館協会, 2008,

p. 228. <http://current.ndl.go.jp/node/14392>, (参照 2018-02-27).)

訳注 3) 本稿では当該部分は翻訳していないため、原文を参照のこと。

訳注 4) 複数の機関が同じ保存施設を共同で利用するが、その保存施設内で保存される資料を重複しないよう調整することはせず、保存施設内のスペースを共有するにとどまる形の「デポジトリ型」と呼ばれる共同保存協定のこと。（村西明日香. “これからの大学図書館における冊子体資料の保存と管理－北米の事例から”. 現代の図書館. 2014, Vol.52, No.4, p.195-203.）

（むらにし あすか 名古屋大学附属図書館  
東山地区図書館課文系図書統括グループ）